

# 六郷のカマクラ



▲「雪ムロ」を作って子どもたちが夜ごもりして鳥追いをしたのが始まりとされる「鳥追い小屋」



▲コンクールで最優秀賞を受賞した大町の「雪宮」  
最優秀賞●大町  
優秀賞●旭町、新町  
努力賞●本館、赤城、琴平、上鑓田、西高方町



国の重要無形民俗文化財に指定されている「六郷のカマクラ」が、ことしも2月11日から15日までの5日間行われました。

「六郷のカマクラ」は豊作や安全、繁栄を祈る「年ごい」と凶作や不幸をばらう「悪魔祓い」、そしてその年の吉凶を占う「年占い」が一体となった小正月行事で、蔵開きと天筆書き初め、鳥追い小屋作り、天筆焼き、竹うちと続く一連の行事は、江戸初期ごろに定着したとされています。

▲正月の松かざりを集めて作った「ニオ」に点火して、願いを込めた天筆を焼いた





▲柳の枝にもちをつけて稲の穂をかたどり、豊作を祈願する「まゆ玉」



▲2つの酒造店で毎年恒例の蔵開きが行われ、観光客は酒蔵の見学や試飲などを楽しんだ



▲「ボヘー」という木貝の音が町内に響き渡り、祭りのムードを盛り上げた



▲家々に掲げられた五色の天筆が風にたなびき、観光客を迎えた



▲町内ごとにもちつきを行い、甘酒などとともに振る舞われた



▲六郷のカマクラの最後をかざる「竹うち」  
ことは南軍が勝ち、米の値が上がると言い伝えられている

